

は日本の生産界における平均値に非常に近いと推察され……」と書いたのですが、エピファネイアやモーリスのようなサンデーサイレンスの曾孫種牡馬が今後は増加するのは間違いないことから、日本におけるこの平均値は益々上昇していくのかもしれない。もしも本当にそのようになったならば、遺伝的多様性低下の観点からも、日本の生産界が危機的状況に陥ることに益々現実味を帯びてきます。

(注釈 2) 上記解析は、社台グループの4ファームを1つの群として扱いました。しかし、これら4ファームの各々の生産や育成に関する考え方は確かに違うものがあり、また、グループの中でも昨今はノーザンファームの成績が突出していることから、今後、新たな解析をやる場合は、これらファームを別の群に設定する必要があると考えています。

2.16 近親交配効果の統計解析 (その2)

上記の統計解析の続編として、今般新たに2016年～18年の3年間に開催された世界のG I競走の全ての勝馬の近交値を生産国毎に出してみました。この3年間のG Iの総数は1372であり、つまりこの「のべ頭数」である1372頭の近交度合いを調査してみたのです。結果は以下の図表8のとおりです(小数点第三位を四捨五入)。

なお、凱旋門賞を連覇したイギリス産のEnableは、この3年間に7つのG Iを勝っています。近交値が3.00以上の馬は、上記の中でもEnable(値は3.43)とアメリカ産で2016年のスピナウエイステークスを勝ったSweet Loretta(値は3.03)のみなのですが、今般の集計は「のべ頭

(図表 8)

勝馬の生産国	のべ頭数	近交値平均	中央値(メジアン)
<u>欧州</u>	315	0.64	0.49
イギリス	91	0.78	0.59
	(除 Enable) 84	0.56	0.45
アイルランド	160	0.63	0.49
フランス	38	0.51	0.44
ドイツ	26	0.39	0.35
<u>北米</u>	327	0.57	0.40
アメリカ	316	0.57	0.40
カナダ	11	0.34	0.20
<u>南米</u>	286	0.50	0.39
アルゼンチン	132	0.45	0.30
ブラジル	83	0.37	0.20
チリ	56	0.82	0.69
ペルー	13	0.49	0.39
ウルグアイ	2	0.60	0.60
<u>オセアニア</u>	281	0.48	0.39
オーストラリア	190	0.47	0.30
ニュージーランド	91	0.50	0.40
南アフリカ	78	0.32	0.20
日本	85	0.44	0.39
	総計 1372	総平均 0.53	

※太字網掛けは総平均より高い値